

アンメットニーズの高い分野として希少疾患が注目を集めていますが、果たしてその高いニーズは、疾患の希少さ（見過ごされていて薬剤がないこと）からくるものなのでしょうか？

それを探るため、日本の大規模医師調査データ*（n=20,595）を用いて、医師の新薬ニーズ（Y軸）、疾患診療医師%（X軸）と、推計患者人口（バブル）を見てみました。 *PatientsMap 2013 Japan

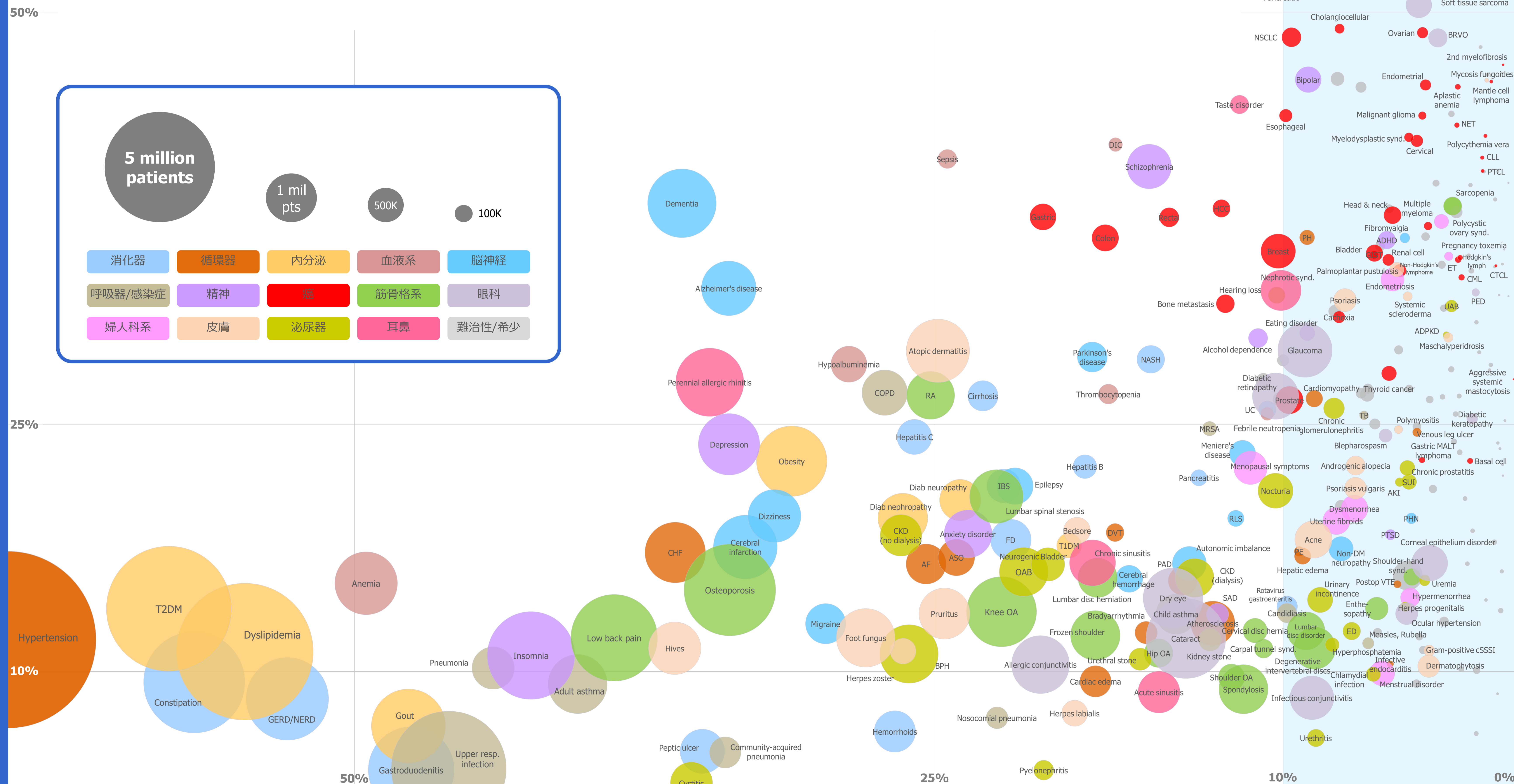
その結果、難治性/希少疾患の新薬ニーズは、より一般的な慢性疾患に比べて多岐に渡り、非常に高いレベルから慢性疾患と同等レベルまで様々であることがわかりました。

希少で難治であっても、必ずしも新薬ニーズが高いわけではないようです。まだ探し当てられていない医療ニーズの「真空地帯」を特定するため、これらに加えて、その疾患の専門医の考え方、現在の治療満足度、疾患間のニーズの違いなどを見るのも意義があるでしょう。

High

新薬ニーズ

Low



5 million patients 1 mil pts 500K 100K

消化器	循環器	内分泌	血液系	脳神経
呼吸器/感染症	精神	癌	筋骨格系	眼科
婦人科系	皮膚	泌尿器	耳鼻	難治性/希少

Common

診療割合

Rare

グレーの疾患はなに？ (希少疾患詳細)



PatientsMapデータベースは 社会情報サービスとエムスリー共同開発のデータベースで、日米27,000人の医師から回答を得て、診療患者数、アンメットメディカルニーズやメーカーの訪問有無などを把握している。